

普及活動情勢報告（平成 30 年 11 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

3JA 合同！シシトウ消費宣伝 ～関東の量販店、東京淀橋市場～



10 月 27～28 日に南国地域 3JA(JA 南国市、JA 十市、JA 長岡)の生産者と関係機関の 7 名が、シシトウの販売促進活動として千葉・埼玉の量販店および淀橋市場祭りにて消費宣伝を実施しました。農業改良普及課は、消費宣伝のサポートや市場担当者との情報交換を行いました。

試食宣伝の時には、生産者の「今の時期はハウス栽培の出始めだから、辛くないですよ」の声につられ、子供さんもパクッ。「ほんとだ辛くない」と言われてみんな笑顔に。生産者共々、辛くないシシトウの生産・出荷を、より一層意識することとなりました。

農業改良普及課は、シシトウの生産安定・品質向上の支援をしていきます。

ほ場整備をきっかけに集落営農を考えよう!! ～第2回南国市集落営農塾～



10 月 23 日、第 2 回目の南国市集落営農塾を開催し、香川県三木町の農事組合法人中を関係機関を含めて 16 名が視察しました。

視察先の役員等から、「ほ場整備を契機とした集落営農法人の設立」について説明いただいた後、併せて収益作物のブロッコリーのほ場も見学しました。

参加者からは、「集落の土地や人に応じた品目選定の重要性や、具体的な出役や機械賃借の仕組み等を知ることができて参考になった。」との声があり、集落営農の理解が深まりました。

今後も関係機関と連携して、ほ場整備後の担い手の 1 つとして集落営農を推進していきます。

高知県青年農業士中央東ブロック協議会が京都で高知県野菜をPR！



11 月 6 日、京都青果合同株式会社にて、同協議会は、「高知県野菜等 PR 活動 in 京果」と題して、品目毎の栽培の様子、年内出荷量の動向などについて情報提供した後、仲卸との情報交換を行いました。青年農業士 9 名と仲卸 11 名、京果 4 名などが参加し、農業改良普及課は、資料作成や会の開催をコーディネートしました。

仲卸など販売側からは「シシトウパックについて検討の余地がないか」、こだわりの強いトマトについては、「オリジナルのネーミングを付けて販売してはどうか」など意見や提案をいただくなど有意義な協議ができました。

	農業改良普及課は、今後も青年農業士の活動の支援を続けます。
--	-------------------------------

ニラの生育状況調査を実施	
	農業改良普及課は JA 土佐香美と協力し、毎週ニラの生育状況を調査しています。野市町及び夜須町の 5 か所のハウスで、草丈や分けつ等を測定した結果、今作では夏季に平年を上回る高温に遭遇したものの、現在は概ね順調に生育していることが分かりました。調査結果は、ほ場主や営農指導員と共有し、今後の管理方法を確認しました。 農業改良普及課では今後も生育調査を継続するとともに、結果を現地検討会等での資料作成に活用し、栽培管理指導を行います。

農薬の適正・安全使用のための個別巡回指導	
	10 月 26 日に、JA 土佐香美、全農、農薬メーカー、農業改良普及課の職員が、ニラ生産者 55 名に対して農薬の適正・安全使用のために個別巡回指導しました。1 チーム 3～4 人の 4 班体制で、安全使用の啓発、農薬適正使用に関するアンケート調査、また農薬の混合場所・タンクの設置状況や残液の処理方法を確認しました。 その結果、農薬タンクの設置場所に改善が必要な例もみられたため、是正するよう指導しました。 農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して個別巡回指導等を継続・拡大し、農薬安全使用の徹底を図ります。

蕪生米のブランド価値向上に向け食味コンクール予選会	
	10 月 24 日、JA 土佐香美香北支所において、蕪生米研究会員 11 名（会員数 15）が岐阜県で開催される第 20 回米食味分析鑑定コンクールへの出品に向けた予選会を開催しました。 農業改良普及課と JA は、出品された「にこまる」等の玄米 24 点の中から、肥料販売会社の協力で測定した食味計、整粒計のデータをもとに、優良な 7 点を選抜しました。 審査終了後には、専門技術員他の指導のもと、コンクール入賞の可能性、良食味生産技術、品種選択等について活発な議論を交わし

	ました。 農業改良普及課では、普通期水稻の有利販売と良食味生産技術向上のため、引き続き韮生米研究会の取り組みを支援していきます。
--	--